

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品製造業

1. <岩手県 めん類 >
9月は各種イベントや地元の祭り等の開催により交流人口の増加でコロナ前の売上に戻りつつある。小売店での売上は値上げの影響もあり以前の売上までは戻らないが、徐々に増加の傾向にある。
2. <福島県 食料品 >
原油の高騰・原材料価格等の高止まりの影響がでており、暑さも続き季節商品の入れ替えが難しく収益にも影響がでている。また、イベント等は再開し観光土産等関連も徐々に回復傾向である。
3. <神奈川県 ひもの >
原料魚不足、電気料金及び諸資材値上がりに加え、猛暑と顧客の購入単価伸び悩みで利益確保が難しい状況である。加えて、一部組合員には円安影響を受けるなど業界を取巻く環境は全体的に厳しい。
4. <長野県 食料品 >
9月の売上は、昨年同時期からやや増加。量販店筋では物価高騰のしわ寄せで買い控えが起こっていてどちらかと言えば脇役の漬物が売れない。原料調達では猛暑による生育不良の影響で厳しい。
5. <岐阜県 食肉（国産） >
ふるさと納税やインバウンドの増加により好調な部分もある。牛・豚などメイン商材の仕入コストが増加し、その他経費の上昇率に商品単価への転嫁が追い付かない。
6. <石川県 調味材料 >
9月度の売上は9%強の微減に止まったが、出荷量は2割近くの減少となった。調味料においては青果、鮮魚の不調と連動せざるを得ない。

繊維・同製品製造業

7. <秋田県 繊維 >
9月は、前年同月に比べて各社とも売上げが減少した。昨年作り込みを行ったアパレルが在庫過多となっており、今年の仕入れを絞っていることや、7月から8月の猛暑・悪天候により、販売不振の状況。
8. <福島県 縫製 >
9月の受注は比較的単価が高く生産量も多かったため売上は順調だった。10月は製品の切り替えにより生産量の減少が予想されるが、11月は早く春夏物が動くとの情報があり受注量の増加が見込まれる。
9. <栃木県 絹・レース・繊維粗製品 >
先月から継続して、サンプルや問合わせの件数は増加しており、昨年と比べ動きは悪くない。不規則、不透明な社会の流れだが、今春のシーズンはある程度の数字に繋がると予測している。
10. <京都府 染色整理 >
和装需要の減退に歯止めがかからず、手描友禅、型友禅はロットの大きい受注が減少。設備の老朽化、道具等調達先の廃業、職人不足の問題も深刻で、生産体制を維持することが難しくなっている。
11. <和歌山県 繊維工業 >
9月の売上は前年同月比かなり減少した。また、販売店からの秋冬物の注文が遅くなっている。猛暑など季節的な要因と原料高や製造経費増による商品価格の値上がりなどが影響しているように感じる。
12. <岡山県 織物 >
原材料、燃料、加工費、人件費等の高騰により、製品価格も上げざるをえず、売り先も理解してくれるところは多い。数字的には売上高が伸びているが、生産量は輸出向け、国内向け等昨年と大きく変わらない。

木材・木製品製造業

13. <北海道 一般製材 >
9月に入っても物流の動きは悪く、製材受注は回復していない。工場稼働率の25%減少している状況が3ヶ月以上続いており、依然として回復の兆しは見えない。
14. <栃木県 家具・建具 >
住宅着工の減少により売上は低下している。原材料の高止まり・電気代等の高騰の影響により、収益状況も悪化傾向が続いている。人手不足も深刻な問題となっており、製造ラインに支障が出つつある。
15. <新潟県 製材 >
原木の動きもあまり良くなく製材所も活気がない。地域材を利用して新たな建材を作れないか他団体と協力して動いていきたい。

16. <山梨県 家具 >
戸建て住宅の需要が回復するまではまだまだ時間がかかると感じている。南アルプス市に大手企業が進出してこるため、従業員の流出を懸念している。
17. <富山県 一般製材 >
木材製品価格は、全体的に乾燥材を中心に値下がり傾向が続いている。県産材素材価格は、昨年夏から下落傾向が続くウッドショック前に近い水準に戻っていたが、直近の価格はやや値上がりしている。
18. <香川県 木材 >
新築住宅建築に必要な木材、資材などの値上げによる着工の見送り、着工への不安等新築住宅着工数が減少する要因が解消されない状況が続いており、景況は好転していない。

紙・紙加工品製造業

19. <茨城県 段ボール >
昨年10月から前年同月比で生産量が良かった月はなく、特に8～9月は前年同月比で生産量は5～20%ダウンしている。コロナ融資の返済が始まり、大変厳しい経営状態が続いている。
20. <愛知県 段ボール >
令和5年8月度の段ボール生産速報によると対前年比94.5%で昨年10月以降11ヶ月連続マイナスを記録した。全体の段ボール生産は、需要低迷を背景に先月に続き前年を下回ると予測される。
21. <岐阜県 紙加工品 >
物価高騰や円安に加え残暑の影響で業績は低迷し、8月に続き商品の動きは全体に悪い。組合員の中には、売上が前年対比30%ダウンという回答が数社あり、8月に続き非常に厳しい状況が続いている。
22. <京都府 紙製容器 >
ものの値上げにより買控えが定着しており、ものの動きの鈍化が顕著になっている。人手不足も深刻化し始めており、年末に向けある程度の受注量増が見込める中、対応に苦慮する企業もあると思われる。
23. <大阪府 古紙収集加工 >
9月も古紙の発生は非常に悪い。例年ならば秋需となり古紙の発生量も増えて来るはずであるが、紙・板紙の生産量は全品とも減少しており、古紙の需給は低位でバランスしている。
24. <愛媛県 機械すき和紙 >
衛生用紙の国内出荷は、前年同月比4.3%減、2カ月ぶりのマイナスとなった。

印刷

25. <岩手県 印刷・同関連 >
全体的に回復基調にある。一般印刷については需要がコロナ前までの水準に戻ることはなさそうで、現状で8割、良くて9割といったところである。
26. <福島県 印刷・同関連 >
各種イベントがコロナ前に戻り、印刷物の受注においても回復しているように感じられる。ただデジタル化・ペーパーレスの波に逆らえず、完全回復とは言い難い。
27. <茨城県 総合印刷 >
各種イベント等は制限なく行われ、活気を戻しており、印刷物の需要面でもプラス要因として捉えている。しかし、印刷資材の値上がりを考慮した価格転嫁が難しく、収益状況、資金繰りで窮屈な状況。
28. <千葉県 印刷・同関連 >
昨年より、売上は上がっているが、材料費、電気代等の値上げのため、利益は減少している。県内に工場をもつ印刷会社等に少しであるが、動きが出てきているようである。
29. <愛媛県 印刷 >
新型コロナの影響による売上減少は恒常化から少し売上が回復傾向にある。ある程度価格転嫁は進んでいる様だが高騰は繰り返している状況であり、価格転嫁で息切れしないで続けることが出来るかが課題。
30. <高知県 印刷 >
先月に引き続き売上増加、設備操業度上昇となった。県外需要で明るさも見られ、県内需要も選挙関連特需あり。半面原材料の高騰が販売価格に十分に反映できてなく厳しい経営状況は継続している。

化学・ゴム

31. <埼玉県 化学ゴム >
円安による原料高になっており、業界の安定性が失われてきている。年末にかけて、景気の悪化が心配になっている。
32. <神奈川県 石油製品 >
組合員からは、今月も「円安に起因する原材料費や荷造運賃等の値上げ分の転嫁が課題」との情報が寄せられた。

33. <奈良県 プラスチック製品 >
受注減の影響だけでなく中国経済の様子見や円安状態の長期化の影響を受け、売上高の減少と収益悪化に歯止めがかからない厳しい状況が続いている。さらなる製造工程の改善や効率化も限界に近い状態。
34. <兵庫県 ゴム製品 >
原材料高、人手不足等もありコストの割高が常態化し始めている。思うように価格転嫁できないこともあり収益が悪化してきている。
35. <島根県 プラスチック製品 >
受注状況は大幅な落ち込み（昨年比78%）となっている。昨年・一昨年に行われた在庫の積み増しにより在庫過多が解消されず、いまだ生産調整が継続している状況。年内は厳しい状況が予測される。
36. <広島県 プラスチック製品 >
円安が続く限り、原材料やエネルギーコストの高止まりは続き、経営の採算は、中々改善しそうにない状況。昨今の円安が更なる原材料の値上げを誘発している。速やかな円高への転換が必要であると感じる。

窯業・土石製品製造業

37. <栃木県 陶磁器・同関連製品 >
仕入価格や運賃上昇により販売利益が減少している。観光客も、週末には見られるが平日はまばらだ。組合員の製造状況も下火である。やはり物価高がかなり影響しているかもしれない。
38. <新潟県 生コンクリート >
9月の出荷は、前年対比184%。8月に引き続き災害の現場の出荷が多く前年を大きく上回る結果となった。そのため各工場とも車不足、人材不足を露呈、出荷状況がひっ迫の状況となっている。
39. <山梨県 骨材・石工品等 >
災害対策工事で製品の需要が増加している地域はあるが、工事が少ない地域では需要が少なく、前年同月と比べ売上げは▲10%となった。原材料価格の高騰によって収益の確保が困難状況が続いている。
40. <福井県 瓦工業 >
引き続き生産調整を行っており、在庫数量を抱えないようにしている。瓦の金型を新しく作らないと対応できないが、数量の多い注文を見込めず採算が取れないような案件がいくつか来ているとのこと。
41. <滋賀県 陶器製品 >
陶土、釉薬共に供給量は前年比と大きく変わらず。観光客は増加傾向にある。ただ、猛暑が長引いた影響で製品の動きはまだ鈍い。秋口からの陶器まつり等の催事に期待している。
42. <沖縄県 コンクリート製品 >
9月は売上・出荷量ともに対前年10%減となった。10月からの最低賃金の引き上げにより、仕入価格や原材料のコストアップも予想されるため当組合製品の販売価格に影響があるのか気になるところ。

鉄鋼・金属製造業

43. <岩手県 金属製品 >
先行きの見通しは不明ながらも少し持ち直してきた。設備操業度は前年同月と不変としたが若干低下している状況で、相変わらず経費の高騰は続いており、決して楽観できる内容とまでは言えない。
44. <千葉県 鉄工 >
納入先の在庫調整もあり受注状況は芳しくない。原材料の高騰に伴う販売価格の見直しは徐々に浸透しているが、収支は依然として厳しい。人手不足を補うために、省力化投資を検討する組合員も散見される。
45. <三重県 鍍金 >
業界の生産額は、前月と比べあまり変わらず伸び悩んでいる。当業界はメーカーから少し遅れて影響が及ぶ業界であるため、受注は総じて振るわない状況であり、年内まではこのような状態が続くと思われる。
46. <岡山県 鉄工 >
人手不足で、特に来年度の新卒採用に苦戦している。前年に比べ、操業度は上昇しているものの、諸経費の高騰で収益にはつながっていない。今後、年末にかけ電力料金の値下げ交渉が大きな課題となる。
47. <香川県 建設用金属 >
建築鉄骨業界の業績は前年並みで推移しているものの、鋼材価格の上昇、図面決定の遅延、人材不足や働き方改革の取り組みなど、経営課題は山積している。
48. <高知県 金属製品 >
海外の大きな市場である中国経済の減速により、製品の受注が減少しているとする事業所がある。団地内の業況にはバラツキはあるが、9月は概ね横ばいから下降傾向の推移となっている。

一般機器製造業

49. <山形県 その他の電気機械器具 >
引き続き自動車関連の製造業の業況が改善し、売上・販売価格が上昇、在庫も増加傾向にある。雇用する人員については各企業ごとに差があり、好調な企業においては不足感も見られる。

50. <群馬県 はん用機械器具 >
電気料金上昇分の転嫁は進む一方で、年度末にかけてコストダウン要請が出てくると睨んでいる。また、コロナ禍の落ち着きに伴い海外との取引増加を目論む。
51. <愛知県 一般機器 >
自動車産業及び関連事業の順調な回復で、殆どの関連各社は好調であるが、最低賃金の上昇に加え、円安やエネルギー価格の高騰も続いており、まだ上昇傾向にはなっていない。
52. <三重県 一般機器 >
先月の受注が少なかったせいか、その反動でこの9月は受注も活発になってきた。昨年は半導体不足による影響があったため、昨年比では受注は多い。コロナ前によく戻ってきた感じはする。
53. <富山県 金属工作機械 >
自動車関連の下企業の景況は、コロナ禍前の状況まで回復・改善してきているが、地方（富山県）はまだまだ見通しが立たない状況である。
54. <石川県 機械金属、機械器具 >
建設機械は海外の需要が好調に推移していることから、受注状況は高止まりが続いている。全般的に大手建設機械メーカーの受注状況の好調を受け、減産の影響は軽微で当面は高操業が続くと予想する。

電気機器製造業

55. <福島県 電子部品 >
前月に続き自動車関連、通信機器関連の受注量は好調を維持しているが、人材が集まらず積極的な設備投資も控えている現状で、どのようにして業績を伸ばすかが大きな課題になることが予想される。
56. <群馬県 電気機械器具 >
海外大手半導体メーカーの日本拠点設立が相次いでおり、今後の需要は高まる見通し。
57. <富山県 電子部品・デバイス・電子回路 >
前年同月比は、ほぼ横ばいの業況となっている。売上高は、工作機械、産業機械向けが低調、自動車向けはやや増加している。
58. <京都府 電機機械器具 >
8月は夏季休暇等により操業日数の減少があり、9月は反動ともいえる操業度の上昇が認められ、負荷対応に苦慮している。
59. <大阪府 配電盤 >
資材価格の上昇分が少しずつ受け入れられるようになっている。
60. <兵庫県 電子部品・デバイス・電子回路 >
9月の国内自動車販売台数は、半導体不足の緩和で各自動車メーカーの生産台数が回復し、前年同月比10.7%増と13ヵ月連続でプラスとなったが、以前コロナ前の水準には達していない。

輸送用機器製造業

61. <茨城県 自動車部品 >
業界の景況は好転したが、組合員間での格差が課題である。また、販売価格もやや抑えられている様子であるため、収益が今後悪化する可能性がある。
62. <愛知県 輸送機器 >
以前ほどの半導体不足は緩和してきているが、影響がなくなったとは言えず、秋以降の新型車の販売予定もあり、改善を期待する。また、物価の上昇、材料費の高騰、人手不足等は継続中である。
63. <三重県 輸送機器 >
大手との取引において、動力費値上がりに対する値上げを対応してもらっていた取引先から、最近の電力料金低下に対応して、値下げ要請に変化している。
64. <島根県 自動車部分品・付属品 >
9月の売上額は前期比で7%の増となった。前年と比較すると自動車関係が横ばい、センサーメーカーの売上が増えた。依然として材料費等の高騰により収益状況は大幅に悪化している。
65. <山口県 鉄道車輛・同部品 >
鉄道車両関係は海外（台湾・エジプト・米国等）からの受注があり順調に推移している。受注量は2024年度後半以降から減少となる見通したが、2026年度からの回復の兆しはある。
66. <大分県 造船 >
各組合員とも慢性的に人材不足が続いている。外国人実習生、特定技能者の増員で対応している。

その他の製造業

67. <東京都 装身具・装飾品 >
一部の企業では売上が増加しているが、全体的には低調。9月に入り原材料の高騰によるプラスチックケースや金属部品の大幅値上げが通知され、コスト負担が経営の重荷になることが見込まれる。
68. <神奈川県 工業中心の複合業種 >
業種には関係なく、月ごと、週ごとに受注量の増減が大きく安定しない。全体では低迷傾向。工場の拡張を考えていた企業も、受注減により計画を見直すところも出ている。
69. <愛知県 アウトソーシング >
自動車生産においては、国際販売分及び海外輸出分も順調に推移している。その生産における構内請負の人材募集や労働者派遣も増えており、人材を募集するが思うような人数が集まらなく苦戦している。
70. <福井県 眼鏡工業 >
OEMを中心に受注は堅調も、中間加工工程がボトルネックとなりフレーム出荷のリードタイムが長いと1年程度かかるなど、生産性が向上しない。そのため、資金繰りにも影響が出始めている企業もある。
71. <奈良県 毛皮革 >
今シーズンの秋・冬物の注文が入り始め、数量は減少気味であるが単価は昨年度と変動していない。鹿皮については、原皮の入手が困難な状況である。
72. <和歌山県 その他 >
未だに原材料価格の高騰が続いており、商品の値上がりも止まらない。製造業者の廃業も追い打ちをかけ、商品の安定した供給ができていない。

《非製造業》

卸売業

73. <宮城県 繊維製品 >
残暑が厳しく秋物投入後の動きがパツとしなかったが、業務用冷感商材は在庫が底をつく状態であった。観光地などは人出が戻り、小物雑貨品類が動いた。
74. <新潟県 花卉 >
秋彼岸用商材の注文が例年よりも多く、売れ行きは好調だったが、猛暑の影響で菊類を中心に入荷量は減少。品薄の状態が続いたことで単価は高めで推移し、仏花に関しては前年比で3～4割高かった。
75. <長野県 各種商品 >
長野県産のきのこについて、雨が降らないこともあって、全く収穫できず、壊滅状態。観光シーズンなのに、仕入れ業者など多くの関係者は困っている。
76. <静岡県 セメント >
令和5年上期の出荷量は災害関連工事等により前年実績を若干下回るほどにとどまったが、今後の需要は不透明である。メーカー値上げの交渉が大詰めを迎えている。
77. <兵庫県 建築材料、鉱物・金属材料等 >
業績が改善されていないが、賃上げを実施された企業は組合員の過半数を占めていると推測される。慢性的な人材不足を受け、雇用の維持や人材確保への「防衛的賃上げ」を余儀なくされている。
78. <沖縄県 各種商品 >
観光客数の増加、経済活動の再開等、昨年と比較して回復基調にあるものの、電力等エネルギー価格高騰による収益への影響、今後の人材確保が懸念される。

小売業

79. <青森県 家電 >
異例の残暑が続く県内でも記録的な暑さが続いたため、エアコンの注文や取付が好調で10月でもまだ消化し切れないという組合員店舗もある。エアコン、冷蔵庫と伸びを示しているが、その他商品は例年並み。
80. <宮城県 鮮魚 >
30℃を超える猛暑が続く、売上減少の日々が続いた。秋の味覚サンマの入荷が少なすぎる。海水温の上昇が続いているため近海魚の漁もふるわず、品揃えに苦労している。
81. <秋田県 スーパー >
野菜については、高温障害による値上がりや発育不足による品物不足、生鮮に関しても様々な影響により品物が揃わず、売上が伸び悩んでいる。物価高騰による買い控え等もあって、苦戦を強いられている。
82. <東京都 青果 >
高温障害による不作のため、野菜の仕入単価が上昇している。この影響で、組合員の資金繰りが悪化している。納品先である飲食店の売上がコロナ禍前の水準に戻っておらず、業務用の需要も低迷している。
83. <三重県 スポーツ用品 >
今まさにアジア大会、ラグビーワールドカップ、バレー大会等々各種目で世界的な大会が行われている。メディアに取り上げてもらおうとやはり気運が高まるのか、お客様の来店が増えているように見える。
84. <奈良県 スポーツ用品 >
材料費、運賃等の高騰でデザインの変わらない継続の商品までが値上げになり、ユーザーの理解を得ることに苦労している。学校等の予算は前年度に組まれており、必要な物が買えない事態になっている。

商店街

85. <長野県 商店街 >
アパレル関連は長引く残暑の影響で秋冬物の伸びが悪い。飲食は夜のお店の個人客は回復しているものの、インフル・コロナの流行もあり企業関連の大規模な会合が軒並み低下している。
86. <山口県 商店街 >
8月に続き、真夏日の多かった9月は、シニア層の来街者が増えなかった。食品関連は売上増となったが買回り品の売上は厳しかった。
87. <香川県 商店街 >
あらゆるものの値上がりで、消費者の生活防衛意識は、ますます高まっていると感じる。9月も異常な暑さで、高齢者などの外出控えも感じられて、街の人通りは一段と減っている。「いい話」を聞かない。

88. <長崎県 商店街 >
前年同月比において売上高は減少、収益状況及び資金繰りは共に悪化。9月に入っても猛暑が続いており秋の気配が全く感じられず、季節商品が不振であった。秋物衣料を中心に販売の時期を逸してしまった。
89. <大分県 商店街 >
例年のない猛暑の影響で日中の人出が悪い、夜はそれなりに賑わいあった。アパレルなど秋冬物がふるわなかった。新規出店もあるが撤退もあり、従業員やアルバイトの確保に苦慮してるお店が多い。
90. <宮崎県 商店街 >
コロナの影響がほとんど見られなくなり、各店舗通常営業ができた月であったと思われる。しかし、原材料、燃料の高騰が高いままで利益を圧縮する結果がどの店舗でも起こっている。

サービス業

91. <宮城県 ホテル旅館 >
全国的にインバウンド需要は伸びているが、東北への波及効果はない。都市圏中心に円安効果でホテルの宿泊代金が大幅に伸びているが、宮城県内では大幅な宿泊代金の伸びはない。
92. <秋田県 建築設計 >
当組合の業況は、前年同月に比べ大きな変化はないが、殆どの業種で慢性的な職人不足の状態にあり、工期の遅延が発生している。そのため、大雨被害を受けた住宅について、復旧の遅れが懸念される。
93. <群馬県 不動産取引 >
高崎駅中心街のマンションは値崩れを起こし、建設中止となった事例もあり、今後の見通しを不安視。また、長期金利の上昇を見据えた駆け込み需要はみられない。
94. <東京都 飲食 >
売上は悪くないがコストの増加により、相変らず、収益状況は厳しい。材料費の値上がりに歯止めがかからないため、商品の再度値上げを検討している組合員店舗が多い。
95. <静岡県 宿泊 >
組合員旅館の宿泊人員は、前年比107.4%と増加した。市の宿泊応援キャンペーンの効果で集客が伸びている。グループ客も少しずつ増えてきている。雇用状況は、引き続き人手不足の状況。
96. <岐阜県 広告美術 >
依然としてコロナ禍前の水準よりも悪化している状況は変わらない。売上・利益とも厳しく、先の見通しが立たない。顧客の廃業やM&Aなどが増えてきており、取引先がなくなるケースも出てきている。

建設業

97. <埼玉県 鉄骨工事 >
最近、県内の商業施設の仕事話も出てきた。ここ3~4年は地元を中心とした中小物件が少なく、首都圏の大型物件で凌いできたが、地場産業に活気が湧き潤いだすのはうれしいことである。
98. <愛媛県 建設 >
公共工事は上半期の前倒し発注が終わり一段落している。補正予算による事業量確保に期待したい。人手不足と資材等の価格高騰が依然経営を圧迫する状況が続いている。
99. <福岡県 板金工事 >
建築板金業のうち、ビルや大型建築物を中心とした組合員は、概ね順調な売り上げを確保している。また部品不足も落ち着いてきたので昨年後半のような材料不足は解消されつつある。
100. <佐賀県 管工事 >
9月期の公共工事受注額は8月期より減少したが上半期公共工事受注額が前年度上半期の12%増しとなりやや早期発注となっている。下半期に向けて各組合員の受注体制を整えたい。
101. <長崎県 建設 >
働き方改革が来年4月に迫る中で、技術者の高齢化や専門技能者不足のため、ITを活用し生産性向上を図るなど具体的な対策を行っている。しかし、人材確保は思うようにいかず各企業ともに苦戦している。
102. <鹿児島県 管工事 >
8月の住宅着工戸数が発表され、前年比23.1%減で、4~8月の合計戸数でも前年比90.7%と前年を下回っている。住宅資材等の価格の高止まりにより伸び悩みが続いている状況で、今後の先行きも不透明である。

運輸業

103. <東京都 港湾運送 >
東京港の状況は輸出入ともに低調で、9月に入ってもなかなか回復がみられない状況が続いている。中国では9月末から10月初めにかけて中秋節による連休があり、貨物量の更なる落ち込みが懸念される。
104. <山梨県 道路旅客運送 >
前年同月と比べ売上げは20%増加した。11月末まで、デマンド型乗り合いタクシーの試験運行が甲府市で行われており、対象地域は限られているが、交通弱者の移動手段として利用者の増加を期待している。

105. < 鳥 取 県 貨物輸送 >
ここ最近、高齢に伴うドライバーの退職者が散見され始めている。さらに高速道路事業についても、組合員の高速代抑制により組合自体の売上高減少と依然厳しい現状が継続している。
106. < 岡 山 県 バス >
観光バスの集客人員は前年同月比122%となった。集客が安定して戻ってきており秋に入り観光需要も旺盛、コロナ禍以前に比べても良化を維持している。秋の後楽シーズンを迎え、更なる需要回復に期待。
107. < 徳 島 県 貨物運送 >
ここにきて、資金繰りが悪化と解答する事業者の割合が少し増えた。目の前にせまった2024年問題にむけて関心は非常に高いが、荷主との運賃、条件交渉はなかなか進んでいない。
108. < 熊 本 県 沿海海運 >
需要の増加に伴う船の建造要請が増えており、船自体も大型化している。陸上輸送の2024年問題対応により、今後も需要の増加が見込まれる。

その他の非製造業

109. < 千 葉 県 輸出入 >
繁忙期の8月から比べると売上は80%ほどに減少し、インバウンドの利用客も個人客が多くなり団体客は少なくなってきた。ただし昨年同月と比較すれば、2倍以上の売上を上げており利益は当然伸びている。
110. < 神 奈 川 県 不動産 >
猛暑のためか、夏以降不動産（売買、賃貸とも）に対する問い合わせが例年になく少ない。資材のコスト高により、リフォーム関係が高額となり家主も困惑している。
111. < 新 潟 県 砂利採取 >
令和5年9月度の骨材生産量は、前年同月比で84.0%、1月から9月までの前年累計比で84.9%である。価格転嫁の朗報がなく、量的にも價格的にも不安感あり。
112. < 奈 良 県 質屋 >
為替相場が再び円安になってきており、高級時計やブランドバッグは海外からの需要が続いている。秋には東京での国際宝飾展が控えていることもあり今後、色石商材を中心に安定した相場が見込める。
113. < 岡 山 県 信用組合 >
先月と引き続き、全体の収益状況については、厳しさを増している。資金繰り支援については引き続き積極的な対応を行っており、11月に開催するビジネスマッチングにて事業者の支援も強化していく。
114. < 広 島 県 不動産業 >
材料費の高騰や人手不足により、戸建住宅、共同住宅の建築等が減少しているが、マンション販売については、近時新築の建築・販売が増えている。中古については依然として販売価格が高値で推移している。